

## 第1回新しい学校づくり吉野川市・阿波市地域協議会議事録

(1) 高校再編方針について

(2) 新しい学校の教育について

委員

この協議会は、県教育委員会が決めたことを私たち委員に報告するための会なのでしょうか。

事務局

この協議会では再編地域の新しい学校のあり方をご協議いただくこととなります。また、下部組織として実務者会議がありますので、そこでの検討内容を地域協議会にご提案させていただき、それについてもご協議いただくこととなります。

委員

子育てが終わってしばらくたっておりますので、現在の高校の状況がよくわかっておりません。阿波市に住んでおりますから、阿波農業高校が、生産したものを即売したり、地域のお年寄りのところにボランティアに行っていることなど、阿波農業についてはある程度聞いておりますが、鴨島商業についてはあまり知りませんので、鴨島商業と地域との連携についてお聞かせいただければと思います。また、阿波農業についても詳しくご説明いただければと思います。

委員

起業実践ということで、平成13年度から鴨島商店街の空き店舗を活用し販売を行っていましたが、店舗借り上げ料の負担が大きいため、現在は、起業家体験学習として模擬株式会社「スマイルデイズ」を設立し、地元商店街の駐車場にテントを建て、販売しております。今年度は、11月3日に校内のオープンスクールでも予定しており、その後、県総合教育センターの産業教育交流展でも実施する予定です。そして商店街でも11月28、29、30日に出店いたします。出来る限り町に出て行くことで学校のPRもしていけたらと思います。

また、吉野川市・阿波市にお願いして、いろいろなボランティアや祭の情報を教えていただいておりますので、できるだけ参加していきたいと考えております。そうすることで地域と学校との連携を深めていきたいと思っております。まだまだですが、これまでの経験も活かしながら参加したいと思っております。

委員

開かれた学校づくりをめざして、体験学習に取り組んでいます。地域との連携で大きな行事は年間3回実施しています。最も大規模なのは、11月の阿波農祭で、7月の夏祭りや2月の温室祭りも実施しています。その他にも地域のお年寄りや希望者を対象に開放講座を年6回開催しております。また、地域の子育て支援ということで、親子ふれあい工房を年2回実施したり、ボランティア等で地域と連携しております。地域と連携しながら生徒を育てることを目標に取り組んでおります。

## 委員

高校の再編は地域住民も強い関心を持っています。

この再編は平成30年を見越したものと伺っておりますが、5校から4校に減ってしまうということは非常に重要なことです。学校の適正規模ということをよく聞きますが、適正規模とはどういうことなのだろうかと思えます。学科によって適正規模のあり方は違うと思えます。そのあたりを説明していただけたらと思えます。

## 県教育委員会

適正規模としては1学年160名から320名としております。

## 県教育委員会

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に沿って、本校の入学者が1学年80名を2年連続して維持できない場合は、統合を検討するとしております。小中学校においては、小規模もあると思えますが、高等学校は将来の進路を直接考えるところですから、ある程度の規模があって、選択科目等を選べるほうがよいと考えております。分校になってしまうと選択科目が開設できないこともありますので、このようにしております。

## 委員

これは県の基準ですか。

## 県教育委員会

国の基準です。本県では最低規模を1学年80名、適正規模を160名から320名が望ましいのではないかとの方針を持っています。

## 委員

中学生の時に不登校だった生徒も阿波農業に入学して先生方に親身になって指導していただいています。先程から規模の話が出ておりますが、少人数でも生徒を大切に指導している学校があることは大事ですので、そこも考えていただきたいと思えます。

また、高校として非常に素晴らしい伝統や財産もありますので、2校が再編された時にそれをどう活かしていくのかも考えていく必要があります。

食物科を新設するという説明がありましたが、どうして食物科を設置するのか、子ども達にとってどんなメリットがあるのか納得のいく説明をしていただきたいと思えます。

適正規模について配慮しながら、きめ細やかな教育をこれからも行ってほしいと思えます。

## 委員

再編したとしても地元の生徒がお世話になることは変わりません。地元の高校としてどういう方向がよいのか考えています。地元の実業高校としては1校になってしまうわけですから、その重要性を考えていかなければなりません。吉野川市・阿波市にとってかけがえのない実業高校なのです。地域のニーズ、中学生の希望をしっかりと受け止めて考えていきたいと思えます。

中学の卒業生の中にも食物科に進学したいと考えていた生徒がおりました。しかし、食物科は小松島西高校になりますので、進学に悩んでおりました。将来的に食物科が設置され、そこを卒業した子が地元で店を開くなど将来が見えるかどうかも考えなければなりません。

せん。商業科と農業科が一緒になるのですから、農業後継者達が、農業経営を学べるような学科も考えられます。子ども達のニーズに応えられる学校、大学にも進学できる学校というように様々なニーズに対応した学校にできるよう検討していきたいと思ひます。

#### 委員

私も阿波農業の卒業生です、役員もさせて頂いておひますが、以前はなくなつてもいいと思ふような学校でした。しかし、今は胸を張つて卒業生ですと言へる学校になりつつあります。

食の安全は、いくらお金があつても手に入れられるものではありません。輸入農産物には農薬等のリスクがあります。また、現在は中国からも輸入しておひますが、数年後には中国自身が輸入国になると予想されています。

先進国は食料自給率が100%を超え、輸出している国もありますが、我が国は40%を切つておひます。食料の輸入が出来なければ大変なことになると思ひます。

農業の本当の必要性を検討していただきたいと思ひます。学校の再編にあつてもそれを踏まえてご検討いただき、ご配慮いただきたいと思ひます。

#### 委員

両校の卒業生が進学する際に、高校での専門性を活かして職業系の大学に行ったのか、それとも普通大学に進んだのかが分かれば教えていただきたいと思ひます。

#### 委員

年度によって異なりますが、本校は県立農業大学校との連携が強く、半分近くが県立農大に進学しておひます。今は、高校を卒業してすぐに農業経営ができるような状況ではありません。大学等に進学し、さらに勉強を進め、またインターンシップなどを体験してから就農するようになります。昔ながらの農業では食べていけないのが現状です。

ですから、これからも大学と連携していく方法を考えていきたいと思ひます。

高校に入学してから自分の個性や特性が見えてくることもありますので、農業と関係のないところに進学している生徒もおひますが、半数以上は農業関係に進学しておひます。

#### 委員

昨年度は55%が進学し、45%が就職しておひます。商業科ですから、経営、経済、情報等の大学、短大への進学は関連性があるとしますと、進学者のほとんどが高校での専門性を活かして進学しておひます。専門学校もどこまで関連性があるかを判断しづらい面はありますが、60%程度が専門の教育を活かして進学しておひます。両方合わせると7割以上が高校で学んだことを活かして進学していることとなります。高校で取得した資格をより高度なものにするために進学している生徒が多くおひます。

#### 委員

一番感じることは、人数が少ないとクラブ活動の実施が難しくなることです。いろいろなクラブを選べなくなつてしまひます。中学校では今年、サッカー部が人数不足でフットサル部になっていると聞いておひます。子どもの希望をかなえられないのが実状です。阿波農業も鴨島商業もどちらもすばらしい学校ですから、再編し規模が大きくなれば、クラブ活動の幅も広がりいろいろな体験ができるようになりますので、喜んでおひます。

先日、徳島商業の文化祭とクラブ活動を見に行きました。徳島商業は1学年300人以上おひますから活気がありました。少人数で行き届いた教育も大切だと思ひますが、人数

が多く活気があることも大切です。親としてはクラブ活動も子どもがやりたいものを選択させたいと思います。再編により規模が大きくなることは喜ばしいと考えております。

#### 委員

鴨島商業も昔は1学年300人以上おりましたが、今は100人を超えるぐらいです。PTAの役員をしておりました時、川島高校の定員が減ると聞き、県に陳情に行きました。鴨島商業の募集定員も減り続けておりますので、そこも考えていただきたいと思います。

再編には賛成しており、人数が多い方が活気が出ると思っておりますが、募集定員についても検討いただきたいと思います。

#### 県教育委員会

高校の募集定員は、地域の生徒数、生徒への進学希望調査の状況、各高校の学科の特性や施設の収容人数等を勘案して総合的に決めています。

従いまして、生徒が減っているのにそのままの定員を置くのは難しいと考えております。また、生徒が希望する高校に一人でも多く入学してもらいたいと考えておりますので、そのようなことを考慮しながら定員を決定しております。

#### 委員

交通費やクラブ活動で帰宅時間が遅くなることを考えれば、親は地元の高校に通わせたいと思っております。しかし、中学生では自分の行きたい学科や進路はまだわからないのが現状です。そうするとどうしても自分の成績に見合った高校を希望することになってしまいます。

今の高校入試制度は前期・後期で分かれ、前期では3割程度の生徒しか合格しませんので、本当に行きたい学校に挑戦できない生徒が出てきます。再編も大切ですが、子どもの特性を活かした魅力ある学校が望ましいと思います。

中学生の段階で子どもが何をしたいか見いだすのは難しいですが、進路がある程度見えるような特色ある学校づくりを進めなければならないと思います。徳島は恵まれた土地ですから、徳島らしいオンリーワンを打ち出せるような学科をつくれるような協議会になればいいと思います。